

登録コード	EKE03900	開講年度	2026				
授業科目	通常学級における特別支援教育					担当教員	奥村 真衣子 他
英文授業名	Special Needs Education in Regular Classes					副担当	上村 恵津子・関 浩司・戸谷 健史
単位数	1	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	履修学年	
講義室				授業形態	演習	備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)【授業の達成目標】	【授業で得られる「学位授与の方針」】				【授業の達成目標】		
	2 6 E A カリ, 2 5 E A カリ						
	教育の専門職としての学識・技能					・インクルーシブな学級を生む諸理論（多層的な支援システム、ユニバーサルデザイン、合理的配慮、モディフィケーションなど）を理解し、児童生徒の実態に応じた支援内容・方法を検討することができる。	
	2 6 E A カリ, 2 5 E A カリ, 2 4 E A カリ						
	子どもの多様なニーズへの対応力					・児童生徒の問題を個人要因と環境要因から多面的に検討することができる。 ・特別支援教育の視点を取り入れたユニバーサルデザイン等を基に、自身の実践や参観授業を捉えることができる。	
	2 4 E A カリ						
	既存の枠組みを超える柔軟な発想力と深い省察力					・特別支援教育の視点を取り入れたユニバーサルデザイン等を基に、児童生徒の実態に応じた支援内容・方法を検討することができる。	
(2)授業の概要	本授業では、インクルーシブ教育システムの理解と、それを構築するための具体的方法の学習を、講義・事例検討・学校参観により展開する。 講義では、学びのユニバーサルデザインが求められている背景やその意義、すべての子どもの学習を保障する多層的な支援システム等、通常学級の支援において押さえておきたいポイントを学習する。 事例検討においては、VTR事例を用いて子どもの問題理解の視点を学習し、子どもの実態や学級の特徴に応じた支援内容・方法を検討する。 学校参観においては、通常学級における特別支援教育に関して、先進的な取組をしている学校を参観し、講義や事例検討で学習した問題理解と支援のポイントを踏まえ、検討を深める。 担当教員が、小学校・中学校・特別支援学校の実務経験を活かして講義を行います。						
(3)授業計画	第 1 回：ガイダンスー通常学級における特別支援教育に関する基本事項ー 第 2 回：事例検討（ 1 ）ー子どもの問題の理解ー 第 3 回：事例検討（ 2 ）ー支援内容・方法の検討ー 第 4 回：学校参観（ 1 ）ー子どもの問題の理解ー 第 5 回：学校参観（ 2 ）ークラスの特徴の理解ー 第 6 回：学校参観（ 3 ）ー支援内容・方法の効果とその検討ー 第 7 回：ディスカッションー通常学級における特別支援教育の現状と課題ー						
(4)成績評価の方法	参観や演習への取り組み（50％）とレポート（50％）により総合的に判断する。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀, 89-80％ 優, 79-70％ 良, 69-60％ 可, 59％以下 不可						
(5)履修上の注意	・授業参観先、日程については、授業で提示する。年度が始まってからの調整となるため、夏頃の連絡となる。平日開催となるため、参加できるよう調整すること。 ・参観校までの移動手段や交通費は各自で準備する。 ・この授業は受講学生の主体性を重視したフィールドワークを通じて学修を進めます。そのため、『信州大学における授業の出席に関する要項』に規定する学習の補充対象とする事由で欠席した場合であっても、欠席回と同等の学修機会を設定することが困難であり、学習の補充を行うことが難しい場合があります。						
(6)質問,相談への対応および連絡先	奥村：maio@shinshu-u.ac.jp（4206） 上村：kamietu@shinshu-u.ac.jp（4243） 戸谷：toya_kenji@shinshu-u.ac.jp（026-241-1177）						
(7)成績評価の基準	「卓越している」：通常学級における児童生徒の理解と支援について、達成目標に示した ～ のすべての視点から検討しており、所属校や実習校の課題とも関連付けて述べられている。 「かなり上である」：通常学級における児童生徒の理解と支援について、達成目標に示した ～ のすべての視点から検討している。 「やや上にある」：通常学級における児童生徒の理解と支援について、達成目標に示した ～ のうち、2つの視点から検討している。 「水準にある」：通常学級における児童生徒の理解と支援について、ねらいに示した ～ のうち、いずれかの視点から検討している。						
(8)事前事後学習の内容について	学校参観においては、講義や事例検討で学習した問題理解と支援のポイントを意識して観察できるよう、各自復習し、参観後は、そのポイントを踏まえて、参観校の実態を整理すること。 この授業は45 時間の学修を必要とする内容です。従って、30 時間以上の時間外学習が必要となります。						
【教科書】	指定しない。						
【参考書】	授業の中で適宜紹介する。						